

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 ○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスとしての新たな理念は作りあげてはいないが、地域密着型サービスとなった事をきっかけに、利用者が地域との関わりを持つ事の必要性を意識しながら、地域交流に努めている。	○	地域の方にも理解しやすいような、地域密着型サービスとしての新たな理念をつくっていく事を協議したい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げている。会議や面談時に確認をして共有できるように取り組んでいる。	○	理念の共有の工夫を考え、改めて実践に向け取り組んでいきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーになって頂き、地域との関わり方について相談・報告・助言をしてもらいながら取り組んでいる。	○	これからも運営推進会議の参加者を増やし、当事業所を理解してもらおう人を増やしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4 ○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民の方への挨拶を忘れず入居相談や見学を気軽にさせて頂くようなつきあいが出来るよう努めている。	○	顔見知りというだけではなく、名前で呼び合うような関係を作りたい。
5 ○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の方に運営推進会議のメンバーになって頂き、地域との交流について相談し、アドバイスも受けている。地域の清掃へ参加や近隣公園にある地域ボランティア「あじさいの家」へ毎週水曜日に訪問しており餅つき等にも参加して頂いた。	○	地域との関わり方について、運営推進会議を通じて自治会の方に相談していきながら、まずは近隣住民の方に当ホームをよりよく知って頂けるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月定例の関西地区会議で、当ホーム職員が介護を必要としている地域の高齢者の訪問介護に行く事の検討、地域の高齢者の支援について協議している。また、運営推進会議等で地域の方、自治会の方とも、独居老人の方(ふれあいサロン)がホームを利用することについても協議している。	○	まずは利用者への支援を第一に考え、地域の高齢者や又ご家族が相談しやすいような環境作りに努め話し合う場を増やしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族会や、運営推進会議で説明をしている。自己評価表・第三者評価表を掲示し確認できるようにしている。	○	ご家族にもう少し、解りやすいような工夫を考え活用できるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、幅広く意見を出してもらっている。ホーム側が相談し助言を頂く場となり、サービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議の参加者からの忠告や助言を頂きながら、学ぶことが多いので、もっと運営推進会議を活かし、地域交流ができるよう取り組んでいきたい。
9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から派遣されている、ボランティアの介護相談員が毎月訪問され、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地域包括支援センターとの関わりを運営推進会議を通じて、活用できるよう、取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会にて家族に成年後見制度についての案内をした。成年後見人制度を必要とするご家族に再度資料等を渡し説明し支援した。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で、虐待についての話し合いをし、防止に努めている。毎日の利用者の心身の状態を申し送りして把握し、日々、理解したうえでチームケアを活かした支援に努めている。	○	会議等で、皆で話し合う機会をもっと増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得	契約・解約時には十分な説明を行い、理解、納得を図っている。	○	説明時にはご家族等が解らないことが、どのような事であるかを十分聞き取り、説明を行いたい。
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者を交えた会議を実施し意見を聞く機会を作っている。日々利用者との対話の中で意見・不満・苦情を聞くきっかけを作っている。市から派遣されている介護相談員も毎月、訪問して頂き運営に反映させている。	○	利用者の意見等に傾聴しているが、しているつもりになっていないかどうか考えていきたい。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、郵送している「ふれあい通信」で利用者のホームでの生活を知らせている。利用者の金銭管理は「弥生会計」で管理し、明確にしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等で意見を聞いて、返答する場を設けている。面会、電話連絡時にも気軽に話して頂けるように取り組んでいる。	○	ご家族が意見しやすい場面作りの工夫を考えたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や定期的に行っている面談などで、職員の意見を反映するよう取り組んでいる。		情報の共有の強化をしていきたい。個性を伸ばせるように、役割を持ち、意見や提案を各自で実践できるような環境を作り、運営に反映できるようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各階のホーム長が勤務を組み、ご家族、利用者の状況の変化に柔軟に対応できるような勤務の調整も出来るかぎり行うように努めている。	○	計画的な勤務表の作成を意識し、勤務調整をする事に対応しやすい工夫をしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できかぎり異動や離職を必要最小限に抑える努力はしている。正社員への登用などの割合を増やし離職を防ぐ考慮をしている。</p>	<p>○</p>	<p>利用者には辞める理由等を、職員間でなるべく統一して同じ返答をし、ダメージを防ぐよう配慮している。また新しい職員に、なるべく早く馴染める雰囲気作りを職員同士が自然と意識し新人の職員を迎えている。</p>
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修等の研修を受講し、外部で学ぶ機会を増やしている。</p>	<p>○</p>	<p>計画性を持ち、職員が学ぶ機会を作りながら、自主的に学んでいく事も身につくような環境を作っていきたい。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実践者研修の受講の実習の受け入れをし、同業者の実習生に、運営推進会議に参加して頂いた。サービスの向上にむけて定期的な交流を図っていけるよう取り組み方を考えたい。</p>	<p>○</p>	<p>同業者と継続していけるような交流の機会を持ちたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月の会議でなるべく意見をしやすい工夫をし、普段の会話の中でも、なるべく意見をしやすいようにストレスを軽減する為の環境作りに努めている。</p>	<p>○</p>	<p>ストレス軽減する為の工夫として役割分担を確立し、業務を合理化していくことで職員が働きやすい環境づくりに努めケアに反映出来る事を目的とし取り組んでいきたい。</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>半年に1回、職員の自己評価表を各自でつけ、面談で努力したこと、反省点、目標を確認し合い、向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>○</p>	<p>職員の自己評価表での指導を強化し、職員が自信を持ち、楽しみを見つけ出せるような職場にしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの情報を参考に利用者と個別で向き合い、本人自身が求めている事をよく聴く機会を作り信頼関係を築くようホームで安心して生活出来る支援に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前からご家族と十分な話し合いの場を持ち利用者の状況、ご家族との関係を良く聴き、ご家族の気持ちや求めている事を把握する努力をしている。ご家族に、安心して暮らせるホームであると理解されるよう信頼関係を築く努力をしている。	○  ご家族が困っている事を、職員間で情報の共有をしていながら信頼関係を築きたい。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時に現在の状況を聞き、他サービス利用の状況を聞きだしながら、他サービス利用する選択肢がある事を話し対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ここで暮らしている利用者の生活課題と目標を見つけ出すため、生活のアセスメントを取り、ご家族にも毎月「ふれあい通信」で利用者がどのように生活をされているか報告し、意見を頂きながらケアプランを作成し、安心して暮らせるように工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「新しい家族」の理念に基づき、家事等の共同作業を行いながら利用者から学び、ともに過ごす事で喜怒哀楽を共有し、支えあう関係である場面を作っている。	○  利用者がもっと自信を持って、活躍できるような場面を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	餅つき、ウィズライフ伊丹祭等の行事の参加、運営推進会議の参加面会時にお菓子作りを一緒に行う等、なるべく利用者を共に支え合う場面作りをしている。	○	ご家族も、利用者をホームと一緒に支援していく関係である事を意識して頂けるよう、また理解頂くような場面作りをしていきたい。
29	○利用者 と 家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者 と 家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月、郵送している「ふれあい通信」で利用者のホームでの生活を知らせてご家族が利用者の事を把握できやすいよう、より良い関係に向けた支援をしている。	○	ご家族が、職員に相談しやすいような雰囲気を作っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の学生時代の友人が面会に来られる。入居前に利用していた美容院への付き添いをしている。入居前から習慣であった知人との集まりに行くように知人とも連携している。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係を把握したうえで家事等の作業を共同で行って頂き、一人ひとりに役割があり自然と利用者同士が関われるよう支援し家事等を共有して頂いて孤立しないよう努めている。また、そのことが習慣となっている。	○	利用者同士のよりよい関係作りの支援を強化したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者やご家族には、つきあいを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の介護記録等で情報を共有し把握するよう努めている。介護計画を作成するときに利用者に希望等を聞き、一人ひとりの生活課題が的確なものであるように工夫している。	○  本人であれば、という気持ちになり、常に利用者の立場になって考える事を心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、主にご家族から利用者の生活歴を聞く。入居する前の利用者の今までのサービス利用の経過と、暮らし方を聞き、これまで、どのように生活されていたのかを、把握するよう努める。	○  利用者の入居された年月が違う事で、生活環境も個々に違うという事を忘れずに支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの記録があり、それを申し送りをしながら情報を共有して把握するよう努めている。介護計画を作成する際、24時間アセスメントを実施し、現状把握の工夫をしている。	
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の24時間アセスメントを取り、8項目のケアチェック表で、アセスメントを行い、利用者・ご家族の意見を取り入れ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○  ケアカンファレンスをする前に、前もって会議の議題を職員同士で決めていき、参加者全員が議題について把握したうえで話し合いが出来るように徹底していきたい。(能率を良くする為)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月の期間で介護計画を作成し、3ヶ月で見直すのが毎月の会議で、検討していく内容があれば、随時確認しあっている。入院等で状態に変化がある場合は、新たな計画を作成している。	○  特に心理面の変化に即した介護計画を早急に立案できるように対応していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録等で、利用者の様子がわかるよう記録している。申し送りや、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の環境の変化の相談や要望等にできるかぎりの対応をし、柔軟な支援をしている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月、介護相談員の訪問を受け入れている。消防訓練をする際に消防署に事前報告し又、結果を報告している。水消火器を借り、消火の実践を毎回している。市の応急手当講習にも積極的に参加している。	○	ボランティアとの協働について強化したい。(ご家族にボランティアの方を紹介して頂いたので、伊丹市のボランティア活動について相談していきたい)
41	○他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する必要性があれば、できるかぎりの支援をしていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在、協働しているとは言えない。地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂いているので今後、必要性があれば、地域包括支援センターと協働していき、その事を意識して関わっていく事に努める。	○	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議で地域交流について、相談するだけではなく、権利擁護等についても意見交換していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>隔週のかかりつけ医の往診や定期的な歯科医の往診、鍼灸院の往診を、ご家族に納得して頂き受診している。その他の受診もご家族の意向を聞いたうえで受診している。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>往診の医師は、認知症に詳しく、また、馴染みの関係にもなっているので、利用者を理解して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>医師に利用者の状態だけでなく、どのような生活をさせているかを今よりも詳しく説明していき、さらに利用者を理解して頂けるように働きかけたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>内科往診の際に同行している看護師に、医師と同様、利用者を理解されているので気軽に相談でき協働している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の際、見舞いに行き入院中の様子や病院関係者と、なるべく情報交換し利用者が入院中、なるべく安心できるような支援をしている。退院に向けての話し合いも職員が立会いご家族とも連携している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化の指針があり、家族会等でも説明し共有できている。介護計画更新の際、終末期に向けての意思を確認している。終末期についてご家族より質問があれば、その都度説明している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員がご家族や利用者を確認する機会を作っているが、かかりつけ医とご家族との関わりをもつ機会は、必要に応じて行っているが、今後の変化に備えての検討をチームとして意識していく。</p>	<p>○</p> <p>終末期に関して、かかりつけ医とご家族とが話しあう機会を、できるかぎり作っていききたい。終末期に対しての意識を、職員・医師・ご家族間で共有していききたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事業所での生活を詳しく記録し、サマリーを作成する。必要に応じて情報交換を行い、住み替えによるダメージを防いでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人の生活スタイルを否定するような言葉かけや対応に、配慮することを意識しながら支援している。	○	親しみが過ぎないように心掛ける。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者を変えた会議や、利用者だけの会議を行い、意見交換をしながら希望を聞き支援をしている。日々の暮らしの中で対話し希望を表せる場面を作るように意識し支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの介護計画を念頭に入れながら、利用者主体のペースを大切に支援している。	○	その人がどのように暮らしたいと考えているかを、解っていると勝手に決めつけず、聴く事を忘れず支援していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさに配慮し、なるべく衣服はご自分で選んで頂いている。訪問美容の利用をして頂き、身だしなみに配慮している。またご本人の希望で行きつけの美容院へ行っている利用者もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、味付け、配膳、食器拭き、食器洗い、箸ならべ、台拭き、等の食事の準備や片付けを日々利用者と一緒にしている。その役割も利用者の習慣となり、食事を楽しむ事のできる支援をしている。	○	現在している事を、継続させながら、利用者をもっと活発に活動できる場をふやしていきたい。
55 ○利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望する利用者にはヤクルト販売を利用できるように支援している。飲み物や、おやつのお好み把握しティータイムの時間を活用して楽しめるよう支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や、介護記録で、排泄パターンを把握しながら、気持ちよく排泄できるよう努めている。	○	羞恥心の強い利用者の排泄の支援が不快にならないような対応であるようにしていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる準備を毎日しており、個々の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送り情報共有をしていくことで生活習慣の把握をしており、昼寝等を促し休息できる環境を作っている。また夜間帯も定期的な巡回を行って安眠できるよう支援している。	○	一人ひとりのその時の状況を判断し、活動する事と、休息する事のメリハリをつけて支援できるように努めたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが得意とする家事等があり、また習慣となっている役割がある。違う階へ気軽に遊びに行く楽しみや気晴らしが出来る環境を作りしている。	○	利用者同士の各階の交流する機会を増やし、気軽に気晴らしができる環境を作りたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承があり、希望されてる利用者には所持して使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣神社・公園への散歩、自治会の回覧板を回しに行ったり、外食へ行く等、外出支援をしている。	○	外出できる機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居前から習慣のある知人との外出を今も続けられるよう支援している。ご家族との外出が出来るように働きかけたり、また出かけられる機会を作っている。	○	個人のレクリエーションをする機会をもっと増やしたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人・家族へ電話・手紙のやり取りの申し出があった場合には、やり取りが出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の場所(ご本人居室・リビング)の希望を聞き、面会しやすい環境作りに配慮をし訪問しやすいよう支援している。	○	新しい職員にも気軽に話しかけられるような雰囲気を作り、訪問しやすい工夫を考えたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会を設置しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事への弊害を理解しており、その事を意識し日々ケアに取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が居室で一人の時間を楽しみながら過ごしている時も、プライバシーに配慮しながら訪室し、安全確認を行っている。自由な行動も十分な見守りをする事、何処にどの利用者が居るのかの所在の確認を全職員が意識しながら安全確保に努めている。	○	ホーム内に居る利用者への所在確認をする習慣を、もっと身につけようになりたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁の保管については施錠しており、洗剤等も保管場所に考慮している。ハンドソープ等、自ら使用できる利用者の過ごしやすい環境も考慮し見守りする事を日々意識しながら危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントのマニュアルを設置している。事故があった場合、今後の対応を話し合い再発防止に努めている。利用者の状態の変化を日々の申し送りや記録等で早い段階で気付くよう努め事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり、利用者の急変が予測できる場合の個人の緊急時マニュアルを作成し周知の工夫をしている。	○	応急手当講座に行った職員も、改めて講座を受けたり、講習の指導者にホームに来てもらい受講する事も考えたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり又、定期的な消防訓練を行っていて、事前に訓練をする旨を近隣の方に知らせている。	○	消防訓練を年2回する機会に、近隣の方へ訓練のお知らせと共に、災害時に当ホームの避難方法等を知って頂けるように働きかけ、協力を得られるよう取り組みたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話連絡の際に転倒等の起こり得るリスクについての話しをしている。「ふれあい通信」での報告や介護計画の作成時にリスクを考えて作成している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを実施。個人記録で体調が解るように記録し情報の共有をしている。申し送りを確実にしていき、状況の変化の早期発見に努めている。		
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護計画に薬の内容、効能を記載して理解をしている。個々の状態に合わせた服薬の支援をしている。	○	塗り薬等の把握や管理も確実にを行うように努める。
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを職員は記録や申し送りで把握し対応している。水分量、食事量、運動量、便秘である時等の利用者の行動や心理状態も考慮しながら排便のパターンを認識し、取り組んでいる。	○	なるべく飲み物や、食べ物で、便秘の解消を考えていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた方法で、口腔ケアを実施している。歯科医師にも相談し指導を受けて、より良い方法を見出すよう心がけて清潔保持に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者のシルバーメニューを基本に、栄養バランスを考えている。一人ひとりに合った食事形態、習慣を把握しており、水分量も記録し水分摂取の確保の支援をしている。	○	水分摂取の確保に意識があるが、一人ひとりが、なるべく自力で自然と摂取できる方法を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、予防や対応の取り決めがある。基本の手洗いを徹底し、感染症予防の意識を強化している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、業者に毎日配達してもらうよう委託しており鮮度が保たれている。賞味期限等の確認、布巾・まな板等の調理器具の煮沸消毒、ハイター消毒で衛生管理に努めている。	○	常時、衛生管理について、清潔にする事を意識しながら安全確保に努める。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植えたプランターを置き、ホーム周りにはつつじを植えている。又、牛乳配達販売の箱を置くことで、親しみやすい雰囲気作りができています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地に恵まれており、ホーム周辺は木々に囲まれ静かな環境である。共用の場を、職員・利用者同士で家事を共同作業する事で、居心地よく過ごせるような工夫をしている。テレビや音楽の音量にも配慮し工夫をしている。	○	これで、良いと決めつけず、新しい意見を取り入れることも考え工夫し、居心地良い環境を作っていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にカーテン設置等の工夫で独りになれる居場所を確保したり、玄関先にベンチを置き、静かに過ごせる環境を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の家具や配置は、利用者の好みや習慣に合わせ、ご家族とも相談し居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝の掃除時の換気や、必要に応じてその都度、温度調節や換気に配慮し利用者に合わせた環境作りに努めている。</p>	○	<p>利用者に合わせた室温を考え、季節感を感じられるように心がけたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要に応じて手すりの設置をしたり、一人ひとりの身体機能を把握し、安全に自立出来るような工夫をしている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を活かせるように、利用者一人ひとりができる事を把握したり意識しながら、さりげなく支援していき自立して暮らせる工夫を心掛けている。</p>	○	<p>一人ひとりの、「わかる力」の範囲が解っていると、思い込まないように、それぞれの「わかる力」を見出すようにしたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りの掃除や、水遣り、ベランダでの洗濯物干し等を利用者が楽しんだり活動できるように支援し、活かせるように努めている。</p>	○	<p>今より活用していけるように、工夫したい。</p>

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームが、日々の実践でアピールしたい点は、利用者と職員は常に共同しながら家事を行う習慣がある事だと思っています。調理・盛り付け・台拭き・食後の片付け・掃除・洗濯干し・洗濯たたみ等、家で暮らしていれば誰かがその役割をしないといけないような、あたり前の事を利用者・職員がそれぞれ役割を持ちながら生活しています。ウイズライフ伊丹の基本理念「自分らしく最後まで」と「新しい家族」に添いながら利用者と職員が「もう一つの家」であるという事が感じられるような日常生活を過ごしております。今後、力を入れて取り組んでいきたい事は、地域密着型サービスとなった事を良いきっかけとして、運営推進会議を通じて地域の方々とより一層関わりを深め、まずは当ホームを知ってもらい理解して頂くように努めていきたいと思っております。家で暮らしていればあたり前のようにしているご近所付き合いが出来るようなウイズライフ伊丹になる事を目指して、利用者が最後の生活の場として楽しく暮らしていけるように支援していきたいと考えています。